http://decfamily.p1.bindsite.jp/2014/

We 35R

No.349　14/04/16

授業

343号で小島順彦さんの「３Ｃ」の話題を伝えた際、広く視野を持つ一つの手段としてニュースや新聞に注目するようにと書いておいたが、理系の諸君は最近のＳＴＡＰ細胞に関する話題などはしっかりとフォローしておくべきだろう。単にＳＴＡＰ細胞やその研究に関わった「あの人」に関する問題として捉えずに、科学のあるべき姿や科学者としての倫理、また、その具体例としての実験や実験データの扱い方、実験ノートのあり方といった諸問題が、新聞などでは分かりやすく解説されている。そういうことを知っておくことは、面接や小論文の際に大いに役立つはずであるし、そんな目先のことだけでなく、将来自分自身が実際に科学に携わるようになった時にも、何かしらの示唆を与えてくれるはずである。

文系の諸君も、例えば国際関係論などを勉強したいと思っている諸君は、今のウクライナで展開されている状況などからは学ぶことが多いはずだし、経済学部・商学部などを目指している諸君は、当然のことながらＴＰＰの行方に注目しておくべきだろう。ＴＰＰに関する記事を読めば、それに関連して現在の日本の産業構造や農業の状況、また、それらを取り巻く流通の状況なども学べるはずだ。

＊

…などとまじめな書き出しの通信である。

昨日の学級タイムでは、いわゆる「ドッキング判定」のことについて簡単に説明したが、その時の君たちの態度を見ていると、やはり去年とは変わってきているなという印象を持つ。無駄な話をすることなくしっかり私の話を聞いて、それぞれが頭の中で「これから自分がどのように模試と関わりを持って行くべきか」、まじめに考えている様子が伝わってきた。進路については、それを実現するのは自分自身であって、誰かが助けてくれるわけではない。自分で決めて、自分でそれをやり遂げるしかない。そういうことが、３年生になって実感として徐々に分かりつつあるのではないかと思う。

しかし、その一方、未だ「遅刻」は気になるレベルだし、「授業に対する取り組みが甘い部分がある」のではないだろうか。先日も授業中に内職をしていて担当の先生から注意を受けた者がいた。先生が注意をするということは、その注意をするという余計なことに時間を費やさなければならない分、他のまじめな生徒は勉強の時間を奪われていることになる。たった一人の不届き者のための３分間が、まじめな人の３分間を奪うことになるということの意味を、真剣に考えてもらいたい。さらに、その先生がそういうことを苦々しく思いながら授業をされているとすれば、おそらくその先生の最高のパフォーマンスは期待できなくなってしまうに違いない。そして、その先生が「35Rの授業はやりにくいな」「この選択講座の授業はつまらないな」と思うようになれば、それはまじめにやろうとしている仲間にとって、さらにはこの学年全体によくない結果をもたらすことは明らかだろう。

もちろん、先生方はそんなヤワな方々ではないが、気持ちよく授業をしていただくにこしたことはない。チャイムが鳴ったら、キレイな黒板の前ですぐに授業に集中できる、そんな雰囲気を作らなければいけないと思う。